



定を締結し、平成 32 年を事業完了年度として、事業を進めている。

#### ※海辺のグランドデザイン

千葉市にある 3 つの人工海浜と 2 つの海浜公園を一体的な空間と捉え、ゾーンの特徴に応じ活性化フレーム（枠組み）やその方向に沿った方策のイメージを提示し、都市の魅力向上・市民生活の充実・地域経済の活性化等を図るため、そのポテンシャルを活かし 20 年～30 年先を見据えた活性化の方向性を示すもの。

#### (2) 事業概要

##### ①事業者の負担により整備するもの【収益施設】

グランピング施設、バーベキュー場、温泉施設、宿泊施設、プール改修など

##### ②市の負担により事業者が整備・改修するもの【非収益施設】

砂浜やトイレの改修、ウッドデッキ、電気・上水道等のインフラ整備など

##### ③事業期間

20年間

##### ④想定事業費

民間負担額（35.7億円：消費税除く）

上限額（24.8億円：消費税除く）

##### ⑤リニューアルまでのスケジュール

平成29年6月 事業者決定

8月 基本協定締結

9月 千葉市議会第3回定例会に補正予算案を提出・審議

※以後、関係者協議が整ったものから整備に着手

平成30年 一部施設がオープン

平成31年 プールのリニューアルオープン

平成32年頃 主要施設のオープン

#### (3) 今後の課題

①民間事業者による経営ノウハウを活かした公園整備の在り方について

②リニューアルということでの既存施設の有効利用について

③公園整備後の収支計画の内容について



## ②千葉県成田市

### (1) 市と成田空港の沿革

成田市は、泉南市同様に国際空港を市域に有する“まち”として人口は、本市の約2倍の約13万人、面積は本市の約4倍の214平方キロメートルの千葉県の北部中央に位置する中核都市である。

市の中心部である成田地区は1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参拝客で賑わいをみせている。市内には、他にも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市である。

成田空港は、昭和41年7月、新東京国際空港（現在は成田国際空港）の設置が決まり、その後、昭和53年5月に開港したところであり、現在の乗り入れ航空会社は約100社で、日本を含む137都市（海外41カ国、118都市、国内19都市）に乗り入れをし、航空機の1日平均発着回数は690回で、空港旅客数は開港当時の5倍を超える年間4,094万人となっている。

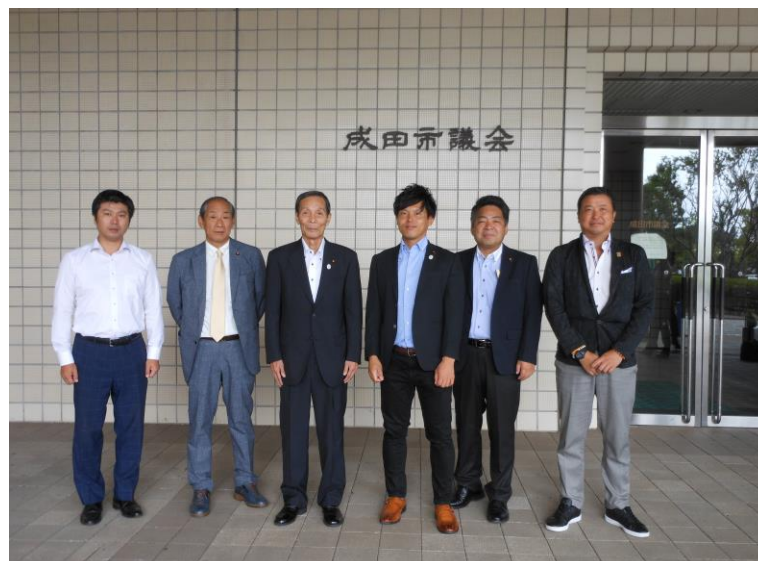
### (2) 目的

国際空港をインパクトとしたまちづくりを先駆的におこなっている成田市が取り組んでいる事業、例えば、インバウンド観光事業の取組み、海外向けプロモーションの実施状況や成田市議会として成田国際空港株式会社に対しおこなっている要望活動やかかわり方について調査・研究を行う。

さらに、航空機騒音や環境対策事業としておこなっている各種補助金事業のハード面、ソフト面の取組み状況について調査を行う。

### (3) 今後の課題

- ①アジアの主要空港において2017年～2019年にかけて大規模な施設整備が予定されていることから、海外のライバル空港に劣後しないように、更なる機能強化の必要性についての検討
- ②空港の機能強化に伴う周辺対策交付金の充実について
- ③東京オリンピック・パラリンピックを見据えた機能強化に向けたスケジュールについて



## 7. 【所感】

### ①千葉県千葉市

稲毛海浜公園リニューアルの事業手法としては、本市が予定しているPFIによるものではないが、公園整備・運営事業にあっては、本市同様に、民間事業者の自己資金で公園施設の整備を行うことから、事業内容等については、本市が進める(仮称)泉南市営りんくう公園整備等事業を推進するにあたって大変参考となった。

### ②千葉県成田市

関西国際空港、成田空港の両空港は、立地条件や稼働時間こそ、差異はあるが、泉南市、成田市ともに、空港を市域に持つまちとして国際空港がもつインパクトや発信力をもとに発展を遂げているところであり、まちの更なる飛躍のためには、空港を核とした施策に引き続き取り組むとともに、地域と共存共栄する空港として、発展するためには、環境対策事業に重点をおくべきであることを再認識した。